

令和3年度第1回金沢市地球温暖化対策推進協議会 議事要旨

■日 時 令和3年5月28日(金) 10:00~11:30

■場 所 金沢市役所第二本庁舎3階 第2研修室

■出席者 (順不同、敬称略)

会長	佐藤 清和	金沢大学教授
	新田 英治	北陸電力(株)石川支店総務部長
	瀬戸 和夫	金沢商工会議所環境問題委員会委員長
	多田 幸生	金沢大学教授
	中山 晶一郎	金沢大学教授
	能木場由紀子	金沢市校下婦人会連絡協議会会長
	道脇 香里	金沢エコライフくらぶ
	宮井 利之	金沢エコ推進事業者ネットワーク代表運営委員
	宮下 智裕	金沢工業大学准教授 ※職務代理者に指名
	須崎 秀人	市民(公募)
	野吾 奈穂子	市民(公募)

※欠席 神 和成 一般社団法人石川県木造住宅協会副会長

事務局	吉田 康敏	金沢市環境局長
	山口 和俊	金沢市環境局環境政策課長
	山田 博之	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室長
	南 友貴	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主査
	中川 久美	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主査
	野村 勇介	金沢市環境局環境政策課温暖化対策室主事

■会議次第

1. 開会
2. 会長の選出
3. 議事  
審議事項  
(1) 令和3年度活動方針(案)  
(2) 令和3年度事業(案)  
・普及啓発事業  
・かなざわエコフェスタ2021  
(3) その他審議事項
4. 閉会

## 1. 開会

### (事務局)

それでは定刻となったので、ただいまより令和3年度第1回金沢市地球温暖化対策推進協議会を開催する。委員の皆様には大変お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

はじめに、吉田環境局長よりご挨拶申し上げます。

### (吉田局長)

本日は大変お忙しい中お集まりいただき、心から感謝を申し上げます。また、委員の皆様方には本市の環境行政に多大なるご理解とご協力を賜っており、この場をお借りしてお礼申し上げます。

昨年度は、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする宣言が、国、そして、本市を含む多くの自治体でなされた。さらに、先月開催された、気候変動サミットにおいて菅首相から2030年までに、国としての温室効果ガス排出量の削減目標を、2013年度比で46%減とすることが表明されるなど地球温暖化対策の機運はかつてないほど高まっている。このような中で、本市市内の温暖化対策を推進する当協議会の役割は、ますます大きくなってきていると考えている。

また今年度は、今年2月に改定した、金沢市地球温暖化対策実行計画の計画年度元年であり、本市でも市役所全体で、積極的に取り組む必要があるということから、庁内横断組織として、金沢市ゼロカーボンシティ推進本部を設置したところである。新たなる実行計画の下、市長を本部長とし、職員一丸となって、各施策の充実強化及び新規施策の導入検討をしっかりと進めて参りたい。

また当協議会においても、より多くの市民、子どもたちが、地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの利用促進等について意識を高め、行動を実践していけるよう、環境イベントであるエコフェスタの内容充実や各種普及啓発事業を一層推進していくことが肝要であると考えている。

本日は令和3年度、当協議会の事業計画と、普及啓発事業につき、事務局から報告させていただくので、どうか忌憚ないご意見を賜るようお願いを申し上げて、簡単ではあるがご挨拶とさせていただきます。

## 2. 会長の選任

会長は委員の互選により佐藤委員が就任。

職務代理者は会長の指名により宮下委員が就任。

### (会長挨拶)

本日はお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。2年間一緒に協議会の運営に携わることになる。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

先ほど吉田局長からあった通り、気候変動対策の機運が高まっている。また、感染症という大きな変化がこの世界を覆っている。気候変動と並び、或いは相互作用しながら、色々な影響を及ぼしている。感染症が及ぼす影響の中で気候変動に対してのプラスのものを挙げるとするならば、経済活動自粛あるいは制限に伴う温室効果ガスの削減が挙げられ、そういった報道や研究などがなされているようである。

カーボン収支の報告をしている団体などによると、2020年は、20億tほどのCO<sub>2</sub>が削減されたのではないかとのことである。産業革命後に、前年度比でそれだけ減ったというのは初めてであるとの評価がなされるとともに、リーマンショック時の削減効果である5億tにとどまり、今回の新型コロナウイルスは相当の削減効果があると言われている。痛し痒しといったところであ

る。

また、日本の J A M S T E C（海洋研究開発機構）と気象庁の気象研究所、二箇所の研究チームの共同発表によると、気候変動の進行率はたしかに減ってはいるが、去年1年の削減効果は極めて限定的であるとの結果が示されている。つまり、感染症に起因する活動制限に頼らずに、今後も温室効果ガス削減は、命題として取り組む必要があるといえる。

本協議会も、これからも知恵を生かして、金沢市内の温暖化対策について協議していきたいと考えている。また先ほど吉田局長からあったとおり、金沢市地球温暖化対策実行計画についても、2月に協議会を經由し山野市長に提出をして、現在、市の大きな目標となっている。本協議会として、深く関わってきた計画であるので、大いに参考にしながら、今後協議を進めて参りたいと思っている。皆様どうぞこの後の審議をよろしくお願い申し上げます。

### 3. 議事

#### (1) 令和3年度活動方針（案）

（事務局）資料3をもとに説明

#### （委員）

私自身は、事業企画部会に所属するが、もし可能であれば計画推進部会にも、個人的にはオブザーバーとして参加したいと思っている。

啓発事業について、SDGsの観点からの啓発は、学校単位で様々な取り組みがなされていると考えているが、金沢市の方では少し違う観点で取り組まれていることと思う。環境出前講座について、実績と、講師がどのようなバックグラウンドをもっているのか伺いたい。

私自身、金沢には転勤で今年の1月から住んでいる。環境問題に興味があり、各種団体やその活動の情報にアクセスしたいと思っても、なかなかまとまっている情報が見つげづらかった。ゆえに、例えば金沢市で持っている情報をホームページ等に載せるとアクセスしやすいのではないかと思う。必ずしも市ですべての情報をカバーする必要はないと思うが、例えば、EPO（環境パートナーシップオフィス）のような中間支援団体にリンクを飛ばすようにしてもいいのかもしれない。ただ、北陸を所管するEPOは名古屋にあり、場所柄、北陸の情報を十分に持っていないと伺った。

#### （事務局）

まず、環境出前講座について、職員を派遣して講義をするパターンと、講師を派遣して講座を開催するパターンの2つがあり、後者の昨年度の実績は年間7件であった。派遣先としては児童クラブであるとか子供向けが多かった印象である。講師としては、金沢エコライフクラブさんであるとか、他の市民団体の代表の方、昨年度ではないが、対企業であれば、環境カウンセラー等を派遣させていただいている。内容については子ども向けであれば、欠け茶碗クラフトのような省資源に資する工作であったり、公民館女性部向けにフードロス啓発のための調理講座も実施させていただいている。開催実績は例年大体10件前後となっているが、昨年は感染症の影響もあり、年度当初に申し込みがあった団体の方からの中止等があり、7件にとどまった。

情報のアクセシビリティについては、金沢市HPはなかなか見づらくもなっており、ご迷惑をおかけしている。環境の部分に関しては、ゼロカーボンシティというトップページを新たに追加させていただいたので、そこからご覧いただけたと思う。今の時代では、やはり情報へのアクセスのしやすさというのは、かなり大事なことだと思うので他の情報についても、より整備していきたいと考えている。

### (委員)

会長から話があったとおり、リーマンショックでも5万t減であるのに対し、コロナ由来のものは20万t減。経済活動を制限したことによる産物だと考えている。国の削減目標が46%ということで、対して金沢市は30%。差は16%あるが、何か具体的に市として削減していく方策はあるのか。

### (事務局)

昨年度策定した地球温暖化対策実行計画については、国の元々のエネルギー施策等に本市の施策を上積みさせていただいた数値として30%の目標をあげている。この46%の達成というのは、菅首相がいうようにいろんな団体、省庁で難しい部分もあると思うので、今後、国の方で検討が進められていくと考えている。そういったものを参考にしながら、本市の方で、どういったことができるかということ、皆様に意見を頂戴しながら、改めて考えさせていただきたいと思っている。

### (委員)

経済活動と温暖化対の両立はすごく難しい話だと思っている。トレードオフの問題であり、両者のバランスをどうとるかについては、イノベティブに考えていく必要がある。

例えば国際協力関係のイベントを開催すると、どうしても元々国際協力に関心ある人しか来ない、リピーターだけがリピートする、というような現状がある。一部の限られた人の話だというような国際協力へのハードルを下げるということは、非常に難しいと考えている。

環境対策、特に地球温暖化対策だと、一般の市民からすると、我慢を強いられるか、努力しないと解決できないというようなイメージがどうしても先行してしまうのではないかと。そうしたことから、単にイベントをやっても、市民の行動を変えていくというところに繋がりにくくなってしまっているのではないかと、という不安もある。

SDGsが目指す2030年の目標達成のためには、しっかりと、私たち一人一人が、行動変容を伴った生活をしていかなければならない。しかしそこが継続していかない。イベントだと、1日限りのお祭りのような感覚になり、イベントに参加したということで満足してしまったり、イベントを実施する側も実施したということで、満足してしまうということに陥りがちになってしまう。ここをいかにして継続的な行動変容を促すものとするか。そのためにも、私が先ほど申し上げた、ホームページに環境団体の概要及び活動内容、連絡先等の情報がまとまっていると、いつでも、関心を持った人がアクセスでき、日々の継続的な行動変容につながると考えている。

イベントを開催するにしても、「楽しい」、「ちょっとでもいいから気軽に取り組んでみよう」といった雰囲気もありつつ、しっかり私たち一人一人がこの社会を形成しているのだという意識を持って、変わっていくような、そういうきっかけになるイベントにできれば、と考えている。

### (委員)

私もイベントという啓発方法にすごく疑問を感じている。環境問題はやはり、次代を担う子供たちに啓発していくのが一番大切であると考えている。子どもに啓発を行えば家庭に波及していくので効果的ではないか。したがって、イベントを大々的に行うのみではなく、学校行事の中にそういった環境問題を取り入れていくということが一番大切なことであると思う。

考えてみると、若い世代は環境問題や食品ロスの問題に興味を持っているが、どちらかというと、我々のようなシルバー世代が、「面倒くさい」と言って、環境問題に興味がないように見受けられる。子どものころから、そういった環境問題に触れてこなかった、気にならなかった、と

ということが原因にあると考えられるので、やはり子供たちの学校行事、保育園行事にそのような文化を入れていくべきではないかと考えている。

#### (委員)

私も同感である。私は以前北海道の札幌に住んでいたが、北海道では、SDG s を学校教育の中に非常にうまく取り込んでいたと感じた。授業で触れるあらゆる視点を SDG s に絡めていた。家庭科や社会、理科等でいろいろな視点で SDG s を絡めて、「この月はこんなアクションしてみよう」と行動に移していた。そのような形で学校教育でも体験的かつ継続的に取り組んでくれると、子どもが家庭に持って帰って、父母の行動が変わったり、その後 P T A を巻き込んで地域での活動に発展したり、すごく広がりが出ると思うので、学校と上手につき合いながら、展開していけるとよいのではないかと思う。北陸の、石川県は教育県というふうに聞いており、問題意識が高い先生がたくさんいらっしゃるのではないかと考えている。私としてははまだ具体的に動けていないが、学校教育の場を活用することはすごく重要なことであると考えている。

#### (委員)

たしかに、一過性のイベントでは、果たして定着したのかわからないとか、色々な問題が発生しており、また、毎年新しいテーマを作り続けないと、陳腐化するという自転車操業のような事象が発生して現場が疲れ果ててしまう。これにはもうそろそろ限界があると思っていたところにコロナウイルス感染拡大が発生したので、情勢が変わった。しかしながら、依然テーマは考える必要がある、案として、例えば「ゆる家事」とくっつける。二酸化炭素を減らすにはエネルギー効率等を考慮すると、高い家電を買ってもらうのが一番いい。高い家電製品を買ってもらうインセンティブとなるように、ゆる家事で作業量減りますよ。というような啓発手法を考えたりもするが、活動団体側としては、かなり疑問があるところである。このような検討もしている、ということで情報提供させていただいた。

#### (会長)

それでは、活動方針（案）について、各部会の構成も含めご承認いただくということでよろしいか。

#### (委員承認)

### (2) 令和3年度事業（案）

#### 普及啓発事業

(事務局) 資料4をもとに説明

#### (委員)

SNS の事業発信はすごくいいと思う。先ほどもイベントの集客が、結局、リピーターの人たちでまわっているという話があったが、若い人たちが「ゼロカーボンシティかなざわ」で、検索をかけてくれる確率はかなり低いと思っている。ゆえに、このイメージ図でいうと、「かわいい」のようなハッシュタグであるとか、そういったものに引っかかってくれる人に見てもらおうということ、つまり、いかに環境と関係ないハッシュタグがつくのかということがこの事業では重要な要素であると考えている。

また、協力企業とあるが、現時点でどれくらいの企業団体がいるのか

**(事務局)**

協力企業団体については現時点で未定であり、事業者選定後に、委託事業者と協議しながら、決めさせていただこうと思っている。

**(委員)**

協力企業団体として、まず候補に挙がってくるのが電力会社や建設会社といった、環境行政と比較的関わりのある業種であるが、そうなってくるとそこに関係してくる人しか巻き込めない。今まで全く環境分野に携わってこなかった業種の企業も巻き込むことが重要ではないか。また、おそらくすべての業態で環境のことを全く配慮していない企業はおそらくないと考えられるので、そこをうまくつければ、協力企業として参加してくれるのではないか。

**(事務局)**

この事業については委員の皆様にも発信の協力依頼であったり、どういった企業を引き込むべきか等適宜意見を頂戴しながら進めて行きたいと考えている。その際にご協力いただくようお願いしたい。

**(委員)**

昨今、カタカナ表記の言葉が氾濫しているが、「ゼロカーボンシティ」という表記についても、語感の良いかもしれないが、市民や子ども達にとってわかりづらいのではないか。そもそもゼロカーボンシティとはどういうことなのか。教えて欲しい。

**(事務局)**

たしかにゼロカーボンシティというのは少しわかりづらい。説明させていただくと、いわゆるカーボンニュートラル、つまり、金沢市内の、温室効果ガスの排出量と森林等による吸収量の収支がプラスマイナスゼロになる事を指す。この「ゼロカーボンシティ」という言葉自体市民にとってなじみが薄い言葉であるとも思うので、普及啓発事業の中で、市民の皆様にはわかりやすく説明していきたいと考えている。

**(委員)**

たしかに、委員のみなさんおっしゃるように「ゼロカーボンシティかなざわ」はわかりづらく、また、検索もかけてもらうことも難しいと感じる。ちなみに、今回の事業では、委託事業者が金沢市の SNS 投稿を行うこととなると思うが、表面上は、当該委託事業者の名前は表示されないという理解でよいか。

**(事務局)**

出てこない形を想定している。なお、発信内容等については、随時金沢市と委託業者とで協議しながら発信させていただくという形となり、いわゆる丸投げのような形にはならない。

**(委員)**

SNS 媒体についてであるが、北海道に居た頃は facebook をよく利用していたが、金沢市に来て若い世代と話していると、Instagram や Twitter を使用している旨聞く機会がある。さらに若い世代だと TikTok らしいが。したがって、若い世代向けに Instagram や Twitter を使用することは有効であると思う。また、いわゆるインフルエンサーを巻き込んだ方がよいのではないか。私自身、若い世代に何が刺さるのか、全然ついていけないので、そういったインフルエンサーに協力してもらい発信の仕方等も、聞いてみるのもよいのではないか。

### (委員)

以前までは2100年までに排出量ゼロ目標だったが50年早まっている。そういった経緯もあり、多くの方は2050年までに排出量ゼロ目標は非現実的だと考えていると思われる。

この高い目標を達成するためには、電力が重要であると考えている。再エネ電力は作るものではなく使うものであると発想を変える。コメで例えると、一般家庭の標準米が多くの家庭で使われているブレンド電力だとすると、コシヒカリ（再エネ）100%の電気をどう買わせるか。を考えていく必要がある。可能であれば、金沢市民の中で再エネ電力を買っている世帯がどれくらいなのかを把握し、また、節電エコポイント事業の中で、再エネ電力を購入している場合に評価を高くする。といった具合に、再エネ電力を使用している世帯の現状を把握し、その数を増やしていく施策を実施することが、ゼロカーボン達成の上では極めて重要なツールになると考えている。今年すぐには出来ないと思うが、来年以降の実現に向けて検討してみたいか。

### (委員)

情報発信について、一番重要なのは発信者側の情報を精査することが重要であると考えている。金沢市の施策情報を羅列するだけになってしまうのはいけないので、金沢市の施策情報を整理し、行動変容を促すとともに多くの人に流れていきやすい情報を発信することを前提として、年齢層や属性により関心事や行動出来る事が異なるため、そういった要素も加味した上で、発信する側の情報をいかに充実させるか。まずはこの点が非常に重要である。

### (委員)

私も発信情報の精査は非常に重要であると考えている。Twitter等のSNSを使用した情報発信には2種類あると思う。1種類は、情報を求めてきた人たちにいかに効率的に効果的に情報を見せるかという話と、もう1種類は、今までその情報を求めてこなかった人たちを、どうやってその窓口につなげていくかということ。今回の事業の主眼は後者をいかに効果的に行うかということとなると思う。ただ、その情報を見たときに面白さを感じなければまともに見てもらえない可能性もあるので、この2種類は両方とも非常に重要であると考えている。

先ほどの話の中で、企業と連携・協議しながら情報発信を行うということだったが、協力企業が発信する情報については、企業の論理で情報を発信させればよいと思う。市と協議し、精査した情報だと、結局金沢市のHP掲載情報に近づいていってしまうおそれがある。協力企業に主体的に情報発信をしてもらわないと、市から依頼があったものしか発信しなくなり、先ほど申しあげた市のHPと似たような情報を発信することになるので、今までと同じような人しかキャッチできなくなるかもしれない。

勝手に情報が広がっていくことを狙うべきで、個人的には、Twitterでいうなら「ゼロカーボンシティかなざわ」のハッシュタグだけつけてもらえばよいのではないかと思う。ハッシュタグは誰でも付けることの出来るものであるため、たとえ不適切な情報にハッシュタグとして「ゼロカーボンシティかなざわ」が掲載されたとしてもそこに行政の責任は及ばないのではないかと。

情報の受け取り側、特に若い世代は、膨大で真偽の入り交じった、玉石混交の情報から取捨選択を日常の中で当たり前のように行っている。そういったことも踏まえると、協力企業団体にはそれぞれの論理で情報発信してもらおうことが、この事業を効果的に運用していくにはより重要だと考えている。

### (会長)

このゼロカーボンシティかなざわ発信事業については、市にも提案をもらいながら、よりよいものをスタートしてきたいと思う。他に意見はあるか。

**(委員)**

お願いとなってしまうが、出前講座等を実際に見たことがなく、見学出来る機会が欲しい。新型コロナウイルス感染状況が改善したら、人数限定でもよいので、見学をさせて欲しい。そこで見学したものを基に、協議会の場でよりよい意見をだせるような形としたいと思う。

**(事務局)**

見学については、どんな形でできるのか、検討させていただきたいと思う。SNS 事業についてはたくさんのご意見をいただいた。どう効果的に啓発できるかについては本日頂いた意見を踏まえながら、また事務局の方で考えていきたいと思う。

再生可能エネルギーについても市の施設でもそういったことができないかどうか等の検討を行いながら、進め方を考えて参りたい。再エネについては、金沢市の方で創エネ・蓄エネ・省エネ補助制度もスタートした。そういったものを併せて、周知をしていきたいと思う。

**(委員)**

SNS 事業については、毎年行っているエコなアイデアの募集事業とすごく親和性が高いと思う。

**(会長)**

多くのご意見感謝する。それでは、普及啓発事業（案）について、各部会の構成も含め承認いただくということによろしいか。

(委員承認)

**(2) 令和3年度事業（案）**

かなざわエコフェスタ2021

(事務局) 資料5をもとに説明

**(委員)**

事務局から話があった感染症対策のための持ち帰り型体験メニューの充実とあったが、プロポージルの参加表明をした企業には伝わっているのか。

**(事務局)**

仕様書や実施要領に記載がある。

**(委員)**

持ち帰り型の体験メニューだと会場じゃなくてもできるということなので、うまくやれば、ホームページ等で、イベント会場だけではなくて、子どもや若い人たちが遊びながら、学ぶようなコンテンツに出来るのではないかと。継続的にそのツールを使うこともできるのではないかと。仮にイベント開催が駅の広場ではできなくなったとしても、うまくやるとオンライン開催コンテンツにもなり得るのではないかと。



**(委員)**

県の環境フェアの開催時期と非常に近いが、開催日が9月12日になった理由と経緯を教えてください。

**(事務局)**

昨年であれば11月開催とさせていただいているが、やはり会場が寒く、今年は特に感染症の流行拡大を防ぐ意図もあり、早めることが必要であると考えた。会場使用の都合も併せて考慮した結果、この日程となった。

**(委員)**

会場となるもてなしドーム地下広場はどんなところで、エコフェスタの集客数は例年どれくらいか。

**(事務局)**

かなり広いイベント用のスペースであり、特に常設の店舗等もない。集客数としては、会場が通路として利用されていることもあり、往来者もカウントしてしまっているとは思いますが、6000人程度である。

**(委員)**

来場者はどこでこのイベントを知って地下に降りてくるのか。あまり回遊性がなく、人の動きが作りにくいスペースだと見受けられるが。

**(事務局)**

地下道として通過が可能な場所でもあり、たくさんの方が往来しているため、そういった方もイベントに参加しやすくなっている。

**(委員)**

オンラインでイベント開催するという点についてであるが、例年、札幌で札幌ドームを借り切って行う、環境広場さっぽろという、大々的なイベントがある。昨年度についてはコロナウイルスの影響で全てオンラインで実施していた。バーチャルで色々なブースを訪問できたり、体験できたりするような興味深いものであった。当該イベントページをみたら、万単位のアクセスがあったようである。

もし今後、コロナウイルスとの付き合いが長く続いていくんだとすると、環境広場さっぽろのような取組も考えなくてはならないと思う。

**(事務局)**

オンラインイベントについては本市でも金沢マラソンをオンライン化するなど前例もある。今後も前向きに検討して参りたい。

**(委員)**

校下婦人会は毎年出展者として参加させていただいているが、今年度もしも通常開催となったら、これまでの様にブースの間隔を密にするのではなく、少し間隔を空けるなど、感染症対策を検討して欲しい。

(事務局)

感染症対策については、パーティションを設ける等、様々な方法を検討して参りたい。

(会長)

エコフェスタ 2021 については今後の事業企画部会で詳細について確認いただくという形で、この場では承認いただくということによろしいか。

(委員承認)

### (3) その他審議事項

(会長)

その他全般にわたって、なにかご意見はあるか。

(委員)

オンラインについては、オンラインでできそうなものがあればその方向性で進めていけばよいのではないか。

(委員)

私も同感である。

(事務局)

オンライン化の導入については今後しっかり検討させていただきたい。

(会長)

他にご意見はないか。

(意見なし)

(会長)

では、以上をもって会議の進行を事務局にお返しする。

## 4. 閉会

(事務局)

委員の皆様には長時間にわたり熱心にご議論いただき、誠に感謝申し上げます。  
以上をもち、令和3年度第1回金沢市地球温暖化対策推進協議会を閉会する。